

# 琉球大学学術リポジトリ

## 写真や図を中心にみる琉球の農作物主要病害虫 (10)

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-05-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 田盛, 正雄, Tamori, Masao メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/20021">http://hdl.handle.net/20.500.12000/20021</a>

3、施す位置に注意する。

施された磷酸は土の中であちこち移動することは少ないので根が伸びる方向に磷酸が待ちうけているような位置に施すことが大切、結局はまき溝の下へ堆肥とまぜて入れ合土をして種子を播くというのが普通のやり方である。

4、施す時期に注意する。  
作物の育ち始めに十分磷酸分があることが大切だから、砂地の外は全部元肥として施した方がよい。

### 写真や図を中心にみる

## 琉球の農作物主要病害虫

い。配合肥料で追肥として施す場合は地表面に吸いとられないようにうね間を掘つて施す。

5、秋落ち田と開墾地では過磷酸石灰は使わない。溶成磷肥やトーマス磷肥、ハイホスカー等がよい。

6、過磷酸石灰を下肥の目方の二二三%入れておくと窒素分の損失を少なくする。

(比嘉信吉)

(10)

### 病害

#### モロコシのサビ病

宿主 モロコシ、ヒメモロコシ、レモングラス、スダングラス

発生 特に八、九月に多く発生し、日本列島においては、九州以南琉球、台湾に分布する。

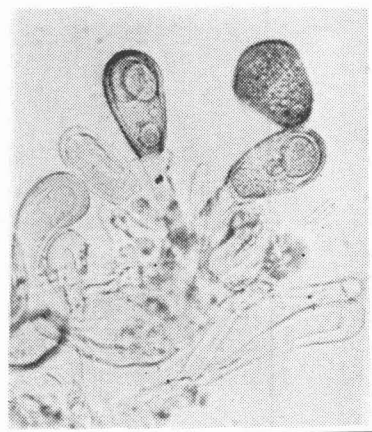
病徴 初め、丸田形の小形、黄かつ色、集団して紅紫色の夏胞子堆を生じ、破れてかつ色の粉を散らす。のち、黒色の冬胞子堆ができる。

病菌 夏胞子は卵形、暗黄かつ色、長さ一四一四四ミクロン、幅二〇一二九ミクロン。糸状体を混生する。

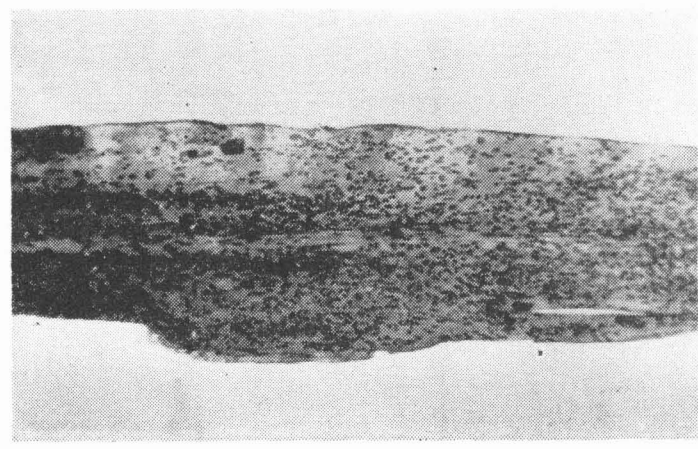
冬胞子は丸形、長丸形、二室からなり、肉桂色又は暗かつ色、長さ三六一五四ミクロン、幅二四一三二ミクロン。柄は永存性。

#### 防除

- 一 ダイセンを散布する。
- 一 被害葉ははや目に除去焼却する。



上 モロコシのサビ病菌夏胞子と糸状体の顕微鏡写真(400倍)  
下 モロコシのサビ病

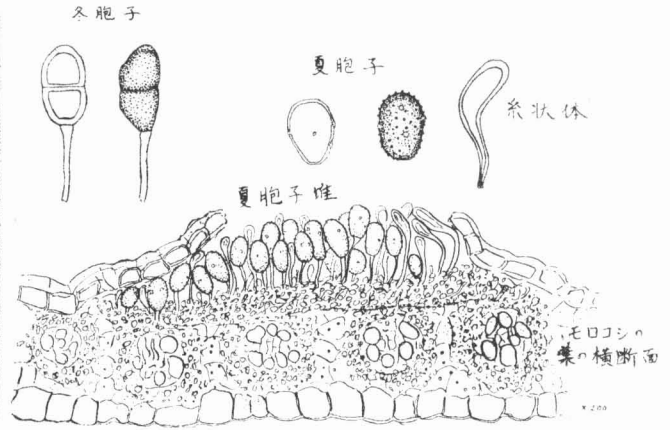
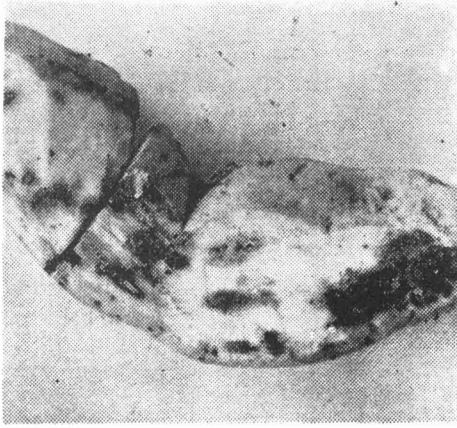


(9)

### お願い

当所に保管の「農家便り」に次の欠号がありますので、御持の方は何卒御譲りください。宛先に普及双書を差上げます。

- 欠号
- 一九五五年二月号
- 一九五六年一月、二月、三月、四月、五月、六月、七月号
- 一九五七年二月号
- 一九五八年三月号



アリモドキゾウムシの加害状態

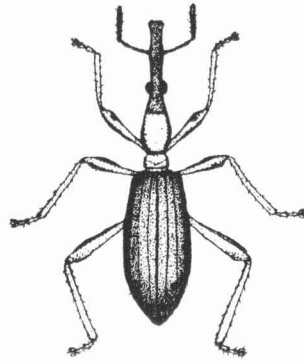
モロコシのサビ病菌と葉の組織

## 害虫

### アリモドキゾウムシ

形態 成虫は体長七ミリメートル内外、一見アリの形をしたゾウムシである。頭部は黒色、口吻は前胸背より少し長く、その中央あたりから黒色で一〇節からなる触角が出ている。触角の先端はこん棒状で雄では長く雌では短い。はねは藍黒色光沢がある。

幼虫は、体長八ミリメートル内外、頭部淡かつ



成虫



幼虫



アリモドキゾウムシ

アリモドキゾウムシ

色、胴部は乳白色、多数の横しわがある。さなぎは、体長六ミリメートル内外、はじめ白色、のち淡かつ色に変わる。

加害 サツマイモの害虫で、イモの外ハマヒルガオ、ゲンバイルガオ、ヨウサイ、アサガオ、ノアサガオなどを加害し年中みられる。

乾燥時に多い。卵は主として地際の茎に、又は地中のイモの表皮に生みつけられ、ふ化した幼虫は直ちに茎又はイモの内部に侵入し、縦横にトンネルをつくって加害する。

#### 防除

- 一、輪作又は塊根の深く入る品種を選ぶ。
  - 一、共通寄生主を除去する。
  - 一、收穫したその残物は、集めて水中に入れるか一メートル以上の深い穴を掘つて中に埋める。
  - 一、苗はひ酸鉛で消毒し、あとは成虫の這い出るのを見計らいBHCを地表に散布する。
  - 一、ドリル剤も効果がある。
- いずれにしても農民が協同で防除に努める必要がある。

(田 盛 正 雄)

発行所 琉球大学農家政工学部  
 発行人 島 袋 俊 一  
 印刷 沖繩タイムス社

指令第一九八〇号

一九五九年八月二五日印刷  
 一九五九年九月一日発行